

科目名	地域を知る学習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	1年 前期	
担当者	眞鍋 誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	13 / 15時間	
担当者	島崎 義弘	資格	社会福祉士	実務経験	有・無	時間	2 / 15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療を看護師として包括的にケアできるために、まず地域を知ることが前提であ ・ この講義は、今治市の歴史や文化、産業だけでなく、その市に暮らす生活者の特徴や生活を支えるための支援とその内容について学習する。今治市で活躍されている人がゲスト講師として講義をすることにより、今治市という「地域」の理解を深めるものとしている。また、「地域を知る実習」に関連してボランティアについても学習し、実習へつなげるものとしている。 								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今治市の歴史について理解できる。 2. 今治市の文化について理解できる。 3. 今治市の産業とその発展について理解できる。 4. 今治市に暮らす生活者の特徴について説明できる。 5. 今治市に暮らす生活者を支えるための支援について説明できる。 6. ボランティアの歴史・活動・心得について説明できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><眞鍋誠子（本学副校長）> <島崎義弘（元今治市社会福祉協議会総務部長）> 1. イントロダクション 2. 今治市の歴史、文化、産業の特徴（総論）（ボランティアを含む） 今治市の人口変動、土地の特徴、暮らす生活者の特徴・ボランティア活動の心得</p> <p><田窪良子（NPO法人創作クラブGrian代表）> 3. 多文化共生社会を目指して～伯方島の実践～</p> <p><谷川文章（浅川造船株式会社・執行役員経営企画室長）> 4. 今治市における産業 造船業について 歴史～いま></p> <p><藤岡洋（今治市総合政策部企画課政策局市民がまん中課課長補佐）> 5. 今治市の行政の立場から</p> <p><橋本幸子（鳥生地域食堂れんこん代表）> 6. こどものいのちと文化を守る実践～こどもを中心とした支援～</p> <p><正岡裕志（今治タオル工業組合 理事長）> 7. 今治タオル産業・歴史と現況について</p>								
<p>教科書</p> <p>基礎からわかる地域・在宅看護論 池西静江 照林社 2021.</p>								
<p>参考書</p> <p>その都度、資料作成</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>各講義ごとにレポートを作成し、その内容にて評価する。また、レポート内容は学習内容だけでなく、文章やレポートの決まりが守っているかも評価内容とする。</p>								

科目名	地域・在宅看護概論	必修	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	1年 後期	
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務 経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅看護の概念と変遷、展望を知り、在宅で療養する対象を理解し、在宅における看護の基礎を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割を説明できる。 2. 家族形態に応じた在宅療養者の家族への支援の必要性を説明できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護の背景と基盤 2. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 3. 地域・在宅看護における倫理 4. 在宅療養者と家族の支援 在宅看護の対象者 5. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件と看護 6. 地域・在宅看護の動向と今後の発展 7. これからの地域・在宅看護の発展に向けて 8. 終講テスト・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>								
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>								

科目名	地域・在宅看護の場と活動	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 後期
区分	専門分野						
担当者	加藤朋子	資格	保健師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅ケアが実施される場と活動の特性を理解し、在宅で療養する対象(家族サービス)に訪問看護を実施するための展開方法を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携・地域連携の意味が理解できる。 2. 介護保険制度の目的と要介護認定と介護サービス計画、サービス内容、介護報酬の概要を説明できる。 3. 身体障害者・知的障害者・精神障害者、難病患者、子どもを支援する制度について説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 地域アセスメント 地域包括ケアシステム 療養の場の移行に伴う看護 地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 2. 社会資源の活用 医療保険制度 後期高齢者医療制度 3. 介護保険制度 4. 生活保護制度 障害者に関連する法律 5. 難病法 6. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 7. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 高齢者施策 事例 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	地域・在宅に暮らす生活者への支援	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 前期
区分	専門分野						
担当者	瀧本広美	資格	保健師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅看護の対象者のニーズにもとづく生活支援を理解し、対象に必要な技術を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの設置、運営、従事者、対象者、サービスと利用までの流れを説明できる。 2. 療養者・家族への災害準備期の支援と多職種連携について理解できる。 3. 在宅での日常生活援助ならびに医療的ケアにおいて、アセスメントや援助技術の基本を学ぶことができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開 3. 訪問看護の記録 4. 在宅看護における危機管理 5. 日常生活における安全管理 6. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 7. 生活ケアと医療的ケア 8. 生活ケアの援助技術 9. 医療的ケアの援助技術 10. 1) 服薬管理 11. 2) 化学療法、放射線療法 12. 3) 在宅酸素療法 13. 4) 在宅人工呼吸療法 14. 5) 膀胱留置カテーテル 6) ストーマ 7) 在宅経管栄養法 8) 在宅中心静脈栄養法 9) 良肢位の保持と褥瘡予防 15. 終講テスト、まとめ <p style="text-align: right;">※DVD含む</p>							
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>杉本正子他 「在宅看護論」 廣川書店 松野かほる他 「在宅看護論」 医学書院 岡崎美智子他 「在宅看護技術」 メヂカルフレンド社</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況などにより評価する。</p>							

科目名	地域・在宅における看護と展開	必修	授業形態			単位数	開講時期			
区分	専門分野		講義・演習			1	2年 後期			
担当者	渡部康子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間			
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅療養を支える訪問看護を理解する。 在宅看護の事例演習を通して、対象者の状況に応じた看護の方法を考える。 在宅における援助技術の演習を行う。</p>										
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での日常生活援助ならびに医療的ケアにおいて、アセスメントや援助技術の基本を学び実践することができる。 2. 事例の症状や病態、療養生活の課題を説明できる。 3. 事例の日常生活行動の自立を促すための支援を考えることができる。 										
<p>授業概要（授業計画）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>在宅療養を支える訪問看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開 訪問看護の帰路器 事例 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 生活ケアと医療的ケア 生活ケアの援助技術 3. コミュニケーション技術 4. 医療的ケアの援助技術 5. } 1) 経管栄養 6. } 2) 中心静脈栄養法 3) 留置カテーテルの管理 4) 在宅酸素療法 5) ストーマケア 6) 摘便 7. } 8. } 看護過程の展開演習 9. } グループワーク・発表 10. } 11. } 12. } 訪問看護 演習 13. } 14. } 事例 COPD 在宅酸素療法の援助方法 15. 終講試験・まとめ </td> </tr> </table>									<p>在宅療養を支える訪問看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開 訪問看護の帰路器 事例 	<p>援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 生活ケアと医療的ケア 生活ケアの援助技術 3. コミュニケーション技術 4. 医療的ケアの援助技術 5. } 1) 経管栄養 6. } 2) 中心静脈栄養法 3) 留置カテーテルの管理 4) 在宅酸素療法 5) ストーマケア 6) 摘便 7. } 8. } 看護過程の展開演習 9. } グループワーク・発表 10. } 11. } 12. } 訪問看護 演習 13. } 14. } 事例 COPD 在宅酸素療法の援助方法 15. 終講試験・まとめ
<p>在宅療養を支える訪問看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開 訪問看護の帰路器 事例 	<p>援助技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 生活ケアと医療的ケア 生活ケアの援助技術 3. コミュニケーション技術 4. 医療的ケアの援助技術 5. } 1) 経管栄養 6. } 2) 中心静脈栄養法 3) 留置カテーテルの管理 4) 在宅酸素療法 5) ストーマケア 6) 摘便 7. } 8. } 看護過程の展開演習 9. } グループワーク・発表 10. } 11. } 12. } 訪問看護 演習 13. } 14. } 事例 COPD 在宅酸素療法の援助方法 15. 終講試験・まとめ 									
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版</p>										
<p>参考書</p> <p>岡崎美智子他 「在宅看護技術」 メヂカルフレンド社</p>										
<p>成績評価方法</p> <p>演習(技術・看護過程)、出席状況、課題などにより評価する。</p>										

科目名	多職種連携と実際	必修	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義・演習			1	3年 後期	
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や地域に暮らす生活者の営みを支えるのは看護師をはじめ、多くの職種が存在している。この講義は多職種の特徴を改めて理解し、その中で看護師としての役割を考え、対象に必要な支援について検討する。また、模擬を通し、連携の楽しさ・難しさを学ぶ。多職種との関係から自己の特徴を知り、課題を見出してほしいと考える。 								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者を支える職種と役割について理解ができる。 2. 様々な場面において看護師の役割とその内容について思考できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職種とその役割 2. 連携と実際 3. } 事例に基づいてディスカッションと発表① 4. } 事例に基づいてディスカッションと発表② 5. } まとめ <p>他学校との交流が難しい場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 各領域における連携(急性期・回復期・慢性期・終末期・在宅方面)※概要 ※ 2回目 リハビリ(PT/OT/ST)との連携 3回目 介護福祉領域との連携 4回目 小児領域との連携 5回目 退院-在宅との連携 6回目 多職種との連携(実際に職場で働いている職種の方とディスカッション) 7回目 1h 終講試験 								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、授業態度や発表内容にて評価をする。 								